

里山のシンボル

台場クヌギを創造

町域のおよそ8割を占めている森林。そのほとんどが、天然林である広葉樹です。それらの森林、里山の環境を「保存」、「再生」するために、町と森林所有者とが手を取り合い、実施されている新事業「台場クヌギを広める活動」取材しました。

豊かな里山を明るく優れた景観へ



農業環境課
なかの ともひろ
中野 智宏主幹

かつては薪や炭を作るために木を切り、柴や落葉を集めて肥料を作るなど、人々が生活するために山に入ることによって里山の環境が保たれていました。

しかしライフスタイルの変化などにより暮らしの中で山に入ることが少なくなり、放置された森林は荒廃が進み、大きくなりすぎた老木が倒木するなどの問題も生じています。

そこで町は、「町内の里山再生事業を強化していくこと」、さらには「資源価値を高めて里山環境を将来へ引き継いでいきたい」との思いから、平成23年から進めてきた里山再生プログラムを見直し、新たに「町里山再生基本計画」を令和6年3月に策定しました。これに基づき今年度から具体的な取り組みとして「台場クヌギ創造事業」を進めています。

「台場クヌギ」で「里山再生」へ

「クヌギ（ブナ科コナラ属）」は町内の里山にも多く分布しています。カブトムシや昆虫が樹液を求めてやってくことで知られていますが、町の特産物「椎茸の原木」にも使用されます。

クヌギの新芽を鹿に食べられないよう約150cmの高さで伐採する手法を「台場クヌギ」といいます。台場クヌギの手法を取らず、低い位置で伐採すると、新芽を鹿に食べられクヌギは枯れてしまうため、この手法の拡大は里山保全につながります。

「台場クヌギ」実施者への助成金を新設

町森林組合ではこれまでも「しいたけ原木」や「薪」を森林所有者や伐採者から買い取っていましたが、本年度、町が新設した「台場クヌギ創造事業」を活用し、高切りすれば上乗せ補助があります。

山の所有者やそれに関わる方は、是非この事業に参画することで、積極的な里山保全にご協力ください。（同組合 ☎ 766 - 3026）

里山に関する問合せは農業環境課（☎ 766 - 8709）



しいたけ しょうすけ
乾 正典さん

「台場クヌギ」で「里山保全」を

私は毎年冬の間に200から500本の木を伐採し、山の荒廃を防ぐことで里山保全を行っています。なかでもクヌギの木は長さや太さの規定がありませんが、椎茸原木として出荷するため、「台場クヌギ」の手法で切り倒し、規定の長さに切り揃え、冬の間に2千から5千本程度の原木を出荷します。

「台場クヌギ」の手法で伐採することで鹿は届かず、食べられ

ないようにします。それでも背の高い鹿は届きますし、木の横から出る新芽が食べられることもあり、台場クヌギが育たずにつかりすることもありません。

台場クヌギの手法を取り入れるためには、高い位置で伐採する必要があります。そのため、脚立や木の上、斜面のきつい足場ではチェーンソーを使ったりと、特に危険な作業が伴います。また、切り倒す方向を考えたり、切り出した木を山から下ろす作業はかなりの重労働です。

しかし、「先祖代々受け継いでいる山を守りたい」、「何か役に立てることがあれば協力したい」という思いで「台場クヌギ創造事業」に参画することで、猪名川町の里山保全活動に協力できればと思います。

これが台場クヌギ！

この部分はしいたけの原木に。



地上から150cm以上のところで伐採。



低木切りで鹿の食害にあったクヌギ



切ったところから芽が出て育っていきます



伐採を繰り返し台場クヌギとなります



50～60年経った台場クヌギ

里山再生活動人材育成事業

チェーンソーの基礎を学び

しいたけ菌入れと薪づくりを体験

- ▶日時 2月15日（土）10:00～16:00
- ▶場所 町消防本部、最寄りの山林
- ▶内容 里山活動の概論とチェーンソーの基礎講習、しいたけの菌入れなど
- ▶定員 大人先着20人
- ▶料金 500円（菌入れした原木1本持ち帰り可）
- ▶その他 作業ができる服装、昼食持参、
- ▶申込 1月31日までに電話または電子申請で農業環境課

※次回はチェーンソーで実際に伐採体験予定
詳細は決まり次第お知らせ

詳細▶



ご家族での参加も大歓迎！

編集後記

里山保全のために活躍している方がいることを初めて知りました。

実際に台場クヌギにするべく、背丈ほどの高さの位置で数メートルあるクヌギを伐採しているところを見せていただきました。慣れた様子で斜面を登り、足場を確保して、倒れる位置まで計算して伐採する様子はとても格好良かったです。



中津 めぐみ



福田 愛